

主体的に探究する児童の育成
～共に学び合い、伝え合う国語科の授業づくりを通して～

第4学年 国語科 学習指導案

日時 令和7年7月9日（水） 動画視聴
場所 温知学舎 世田谷区立鳥山小学校
学級 第4学年せせらぎ組 4名
授業者 下村 真太郎

1 小単元名 場面を比べて読み、心に残ったことを伝えよう
教材名 「一つの花」

2 小単元の目標

○場面の移り変わりと結び付けて「一つの花」の題名の意味を考え、心に残ったことを伝え合うことができる。

3 小単元の評価標準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。【(1)オ】	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。【C(1)エ】 ②心に残ったこととその理由を探求し、言語化しようとしている。【C(1)オ】 ③友達の感想を聞き、互いの考え方や感じ方の違いに気付いている。【C(1)カ】	①粘り強く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。 ②学習課題に沿って課題に取り組み、自分の考えを書こうとしている。

4 単元について

(1) 教材について

戦争と平和の物語である。既習教材の第3学年下巻『ちいちゃんのかげおくり』をはじめとした同ジャンルの物語とも関連づけて読むことで、時代状況が把握しやすくなり、場面の様子やその移り変わりをより具体的に想像することができる。また、親と子の物語、自立や成長の物語として受け止めることも可能である。物語を読むことが、時代を超えて登場人物に思いをはせる行為であることを実感させてくれる作品である。

作者の今西祐行は、原爆投下直後の広島に救援隊として入った経験を基に、『ゆみ子とつばめのおはか』や『ヒロシマの歌』など戦争にまつわる作品を上梓している。また、晩年は山里に移り住み、農業学校を営んで、「生きることは耕すこと」だと農業を教え続けた。『一つの花』では、今西祐行の平和への強い願いが描かれている。

戦争体験が急速に風化し、戦争についての知識が少ない第4学年の児童にとっても、テーマ性の強い『一つの花』の物語は、人物同士の関係やキーワードを捉えやすく、着目した観点に沿って作品を読み、考えたことを話し合うことに適した教材である。『一つの花』は、ゆみ子に対する両親の思いが「一つだけ」というキーワードを軸に登場人物の行動として表現されている。「一つだけ」という言葉に込められた父母のゆみ子への愛情は何にも代え難いものとして、児童に捉えさせたい。

本教材は、対比的な表現が多く使われている。父の出征を見送りに行く場面では、他の人たちの賑やかな見送りの様子と家族の静かな見送りの様子、戦争中の場面と戦争後の場面の状況や人物の様子、一輪のコスモスとコスモスのトンネルなどの対比である。対比的な表現に着目させることによって、戦争中と戦争後の暮らしの変化、ゆみ子の両親の気持ちを想像豊かに読ませたい。さらに、互いの考え方や感じ方の違いに気付く活動を通して物語の見方や感想のもち方をより豊かにさせていきたい。

(2) 教材文の分析

終結部	山場の部	展開部	導入部	場面
P. 80L1～P. 81L5	P. 76L1～P. 79L12	P. 74L5～P. 75L4	初め～P. 74L3	登場人物の心情や行動
「ゆみ子」と「お母さん」は、とんとんぶきりで暮らしてい。この小さな家で暮らしてい。母さんは、「お父さん」と「お母さん」の口癖を、「お父さん」と「お母さん」は最初の言葉として覚えていた。	「ゆみ子」は、「お父さん」と「ゆみ子」は、戦争に行く。「ゆみ子」は、「お父さん」を見送りに行く。「ゆみ子」は、「お父さん」との別れ際に、一輪のコスモスをもらひ、喜んでいた。	「ゆみ子」のことを「お母さん」と「お父さん」は心配し、嘆く。「お父さん」は、「ゆみ子」のことを高い高いする。	「二つだけ」という「お母さん」の口癖を、「おみ子」は最初の言葉として覚えていた。	「二つだけ」という「お母さん」の口癖を、「おみ子」は最初の言葉として覚えていた。
「お父さん」との最後の別れから十年後、平和が戻り、豊かな暮らしを送っている。	一輪のコスモスは、ラットホームの端に咲いていた。	体が丈夫ではない「お父さん」も出征するほど戦争は激化していく。駅では、万歳の声が起きた。歌が歌われたりしていった。	「お母さん」は現在の「ゆみ子」を不憫に思いい、「お父さん」は、「ゆみ子」の将来に思いをはせていた。	戦争が激しくなり、食べる物を十分に手に入れることができない環境であった。

(3) 児童の実態と学級の様子について

在籍児童4名は学習においてそれぞれ異なる特性があり、学力差も大きい。共通事項として、国語科において学習の積み上げが少なく、第4学年相応の学力は身に付いていないことが挙げられる。3名は本学級への転入前は不登校の状態で、集団での学習の環境に慣れることから始めている。「白いぼうし」においても、文章や挿絵から物語の内容を理解することにとても苦戦し、劇化や発問を何度も繰り返すことで理解することができた。学習に対して前向きに取り組む気持ちが育っておらず、自分事として捉えることに時間がかかるため、繰り返し物語を読み、発問を重ねることで、まずは内容をしっかりと理解させることを意識していきたい。そこから自分の意見や考えをもち、本単元では「交流」にも挑戦していきたい。また、LD（書字が困難）や緘黙の児童がいるため、個人に寄り添った支援も行っていきたい。

学級の様子について、お互いのことを知り、仲が深まってきた。楽しく活動する姿も見られ、児童にとって学級が安心できる環境になっている。そのことが意見や考えの表出しやすさにつながっている。児童同士のコミュニケーションを取り入れることに本単元でチャレンジしていく。（児童の実態 別添参照）

5 めざす児童像との関連

特別支援学級（情緒）のめざす児童像

「学びの方法や支援を活用しながら、学ぶことの楽しさを感じることができる子」

特別支援学級（情緒）では、物語文の読み方を身に付け、本文の理解を深めていくことが学ぶことの楽しさを感じるために大切であると考え上記の児童像を設定した。

他者意識の低さから登場人物の思いに寄り添うことが苦手な児童が多く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を読み取ることが苦手な児童が多い。そこで、様々な学習方法を体感し、支援を活用することで学ぶことの楽しさを感じさせたい。学びの楽しさを感じる場面として「物語のあらすじを捉えられた時」

「根拠をもって自分の考えを持つことができた時」「友達との交流を通して読みが深まった時」などが挙げられる。物語文の読解では登場人物に着目してあらすじを捉え、伝えることができる力を育て学習の土台とする。まずは、この土台を固めることで、学ぶことの楽しさにつなげていく。

6 研究の手立て

(1) 様々な学びの方法や支援の工夫

① 特性に応じたワークシート

書字に苦手意識がある児童や、書くことにも時間が必要な児童がいる。授業の中で文章を読んだり考えたりする時間が多く確保するために、穴埋め式や選択肢のワークシートを作成し、個人に合わせて提示していく。

② 色分けの工夫

視覚的に内容を整理するために、マーカーペンを使い、登場人物ごとに色を決め、セリフや行動に教師と一緒に線を引く。指導に時間を要す可能性はあるが、少人数のため可能だと考える。また、中心人物の気持ちを考える際に、操作できる円グラフを用いることで、考える一助としたい。

③ 学習環境の整備

学習内容や個々のコンディションによって、小集団での学習と個別での学習を使い分けられるようにする。

①～③は全て、文章の内容を理解するための手立てとして行う。内容の理解が児童像実現の土台になると考える。

(2) 言語活動を充実させる工夫

① 交流活動の継続

自分の考えや感想を他者に伝える。また、伝えられたときに反応する活動を、単元を通して行っていくことで、頷きから一言感想を言うなど難易度が上がっていくことを想定している。また、考えや感想は手元に書いてある状態でないと伝えることが難しいと予想する。そのため、児童の実態に応じてワークシートやタブレット、気持ちカードなどを活用する。

② 「交流振り返りシート」の活用

「自分の考えを伝えることができた。」「友達の考えを聞くことができた。」「友達の考えを知ることができた。」「自分の考えと友達の考えの違うところや同じところに気付くことができた。」の項目を設定し、交流に絞った振り返りを単元通して行う。振り返りの観点を限定し、それを継続することで、自分の学びの振り返りや連続性につなげていきたい。

③ 他者意識を考えためあて設定

他者を意識することが苦手な本学級の児童でも考えやすいめあて設定を意識する。本時の学習でも、「ゆみ子が幸せかどうか。」という明確なめあてを提示することで、自分事としてめあてに迫っていく姿の実現をねらいとする。

7 学習指導計画（全7時間）

過程	○ねらい	○主な学習活動 ・予想される子どもの反応	◇指導上の留意点 ★評価規準（方法）
第一次	①「一つの花」を読み、学習の見通しをもつ。	<p>○音読を積み重ねてきた中で、この物語について、どんな思いをもったかを発表し合う。</p> <p>○めあてを確認する。</p> <p>「一つの花」はどんな物語だろうか。</p> <p>○教師の範読を聞く。</p> <p>○登場人物、時代、季節、場所を確かめる。</p> <p>○単元のめあてと見通しをもつ。</p> <p>どうして「一つの花」という題名にしたのだろうか。</p> <p>○本時の振り返り。</p>	<p>◇どの児童も、読み取る力が弱いため、事前に音読を家庭学習としている。</p> <p>◇どこを読んでいるか、指で行を追いながら聞くよう促す。</p> <p>◇必要な場所に、色分けして線を引くようにし、視覚的にわかりやすくする。</p> <p>★【思・判・表②】心に残ったこととその理由を探求し、言語化しようとしている。(発言・記述)</p> <p>◇交流振り返りシートを使用する。</p>

第二次	<p>②ゆみ子の境遇を理解し、お母さんのゆみ子に対する気持ちを読み取る。</p>	○めあてを確認する。	
		お母さんはゆみ子にどんな思いをもっているのだろうか。	
		○ゆみ子の「一つだけちょうどいい。」という台詞から物語が始まっていることに着目し、その意味を考える。	◇戦時中の、物のない大変な生活がわかるような写真などを提示する。
		○お母さんの口ぐせが「一つだけ」になつた理由とゆみ子に対する気持ちを考える。 ○お母さんのゆみ子に対する気持ちを考える。	★【知・技】 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(発言・観察)
<p>③ゆみ子の境遇を理解し、お父さんのゆみ子に対する気持ちを読み取る。</p>	<p>○めあてを確認する</p>	お父さんはゆみ子にどんな思いをもっているのだろうか。	
		○お父さんの行動や台詞に込められた意味について考える。 ○本時の振り返り	◇お父さんの行動や台詞を実際に演じることで、どんな思いが生まれたかを確認する。 ★【知・技】 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(発言・観察) ◇交流振り返りシートを使用する。
<p>④お父さんの、「一つだけのお花」に込められた思いを読み取る。</p>	<p>○めあてを確認する。</p>	お父さんは、なぜ、ゆみ子にコスモスの花を渡したのだろうか。	
		○お母さんの肩にかかっているかばんの中の「おにぎり」について考える。 ○一輪のコスモスの花について考える。	◇本文には書いていない「おにぎり」や「コスモスの花」の詳細について想像し、意見を出し合うよう促す。
		○表を活用し、戦争中と戦争後の登場人物、コスモスの花、食べ物の変化について考える。	◇表に整理することで、ゆみ子の生活の変化に気付けるようにする。 ◇今の自分たちの生活とも比較して考えられるよう声をかける。 ★【思・判・表①】 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(発言・記述)
		○本時の振り返り	◇交流振り返りシートを使用する。

	<p>⑤戦争中と十年後の場面を比べ、ゆみ子の変化を捉える。</p> <p>(本時)</p>	<p>○前回までの学習の振り返りをする。 ○めあてを確認する。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">十年後のゆみ子は幸せなのだろうか。</div> <p>○第三場面をみんなで音読する。 ○十年後のゆみ子が幸せではない理由を考え、意見交流をする。 ○十年後のゆみ子が幸せな理由を考え、意見交流をする。 ○十年後のゆみ子は幸せかどうか、自分の意見をまとめる。 ○本時の振り返り。</p>	<p>◇前回の表を掲示することで学習を振り返りやすくする。</p> <p>◇「幸せ」「幸せでない」の両方の立場から考えることで、考えの幅を広げられるようにする。</p> <p>★【思・判・表①】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(ワークシート・発言)</p> <p>◇交流振り返りシートを使用する。</p>
第三次	<p>⑥題名「一つの花」の意味を考える。</p>	<p>○全文をみんなで区切って音読する。 ○めあてを確認する。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「一つの花」という題名は、何を表しているのだろうか。</div> <p>○「一つだけ」という言葉が出てこない理由について考える。 ○題名「一つの花」に込められた意味について話し合う。 ○本時の振り返り。</p>	<p>★【態②】学習課題に沿って課題に取り組み、自分の考えを書こうとしている。(意見・記述)</p> <p>◇交流振り返りシートを使用する。</p>
	<p>⑦物語の中で、心に残ったこととその理由について話し合い、友達との思いの違いに気付く。</p>	<p>○めあてを確認する。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「一つの花」を読んで心に残ったことを伝え合おう。</div> <p>○心に残った場面に線を引き、理由とともにノートやロイロノートにまとめる。 ○心に残った場面を音読し、理由を発表したり、読み合ったりする。 ○友達の思いと同じところ、違ったけれど共感できるところについて話し合う。 ○本時の振り返り。</p>	<p>◇最初に3つの場面の中から1つを選ばせ、さらに絞り込ませることで、考えやすくする。</p> <p>★【態①】粘り強く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。</p> <p>【思・判・表③】友達の感想を聞き、互いの考え方や感じ方の違いに気付いている。(意見・記述)</p> <p>◇交流振り返りシートを使用する。</p>

8 本時の学習（5／7）

(1) ねらい

○戦争中と十年後の場面を比べ、ゆみ子の変化を捉える。

(2) 展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇：学級全体への指導上の留意点 A児～D児：個人への指導上の留意点 ★【評価】(方法)
導入	<p>○前回までの学習の振り返りをする。 •お母さんとお父さんのゆみ子に対する思いを考えました。 •戦争中と十年後の様子を比べて読みました。 ○本時のめあてを確認する</p>	<p>◇前回までの板書を掲示したり、ファイルしてあるワークシートを見たりすることで学習を振り返りやすくする。 A児：めあてが記入してあるワークシートを用意する。</p> <p style="text-align: center;">十年後のゆみ子は幸せなのだろうか。</p>
展開	<p>○十年後のゆみ子が幸せではない理由を考える。 •「お父さんの顔をおぼえていません。」と書かれているからです。</p> <p>○十年後のゆみ子が幸せな理由を考える。 •買い物に行くくらい平和になっているからです。 •お肉とお魚を選べるようになっているからです。 •スキップをしているからです。</p> <p>○「幸せ」「幸せではない」の割合をグラフで表す。</p> <p>○考えを交流する。 •私は「幸せ」な割合が大きいです。なぜなら、平和になっていることがとても大切だと思うからです。 •私は「幸せではない」割合が大きいです。なぜなら、お父さんがいないことはとても悲しいことだからです。</p>	<p>◇場面を対比して分かったことを黒板に掲示しておくことで理由を考えやすくする。 ◇オープンエスチョンとクローズドエスチョンを組み合わせることで、考えの表出を促す。 ◇「幸せ」「幸せでない」の両方の立場から考えることで、他者意識を高める。 C児：リアクションカードを用いて、友達の発言に反応できるようにする。 B児・D児：前回までの授業を想起できるような問いかけを行う。</p> <p>◇2色の円グラフで表すことで、2択ではなく、考えを柔軟に表現できるようにする。 ◇初めて扱う教具なので、教師がはじめに見本を見せて、イメージできるようにする。</p> <p>◇話型を示し、考えを伝えやすいようにする。 ◇話す人と聞く人の役割を視覚的に分かるようにする。 C児：リアクションカードや教師が変わりに伝えることで、考えの表出を支援する。</p> <p>★【思・判・表】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(ワークシート・発言)</p>
まとめ	<p>○友達との交流を終えて変化があったかを問い合わせのまとめをする。 •友達の考えを聞いて、幸せな割合が増えました。 •交流前と同じ考え方です。</p> <p>○学習の振り返りをする。 •友達の意見と同じことに気付くことができました。</p>	<p>◇交流後にもう一度割合を円グラフに表すことで、授業の中での変化を捉えやすくする。 ◇交流前に表したグラフの写真を示すことで、比較をしやすくする。</p> <p>◇「話す・聞く振り返りシート」を使い、交流における振り返りを行う。</p>

【板書計画】
一つの花

振り返り	です。	話型	〇十年後ゆみ子が幸せでない理由	めあて 十年後のゆみ子は、幸せなのだろうか。
			<ul style="list-style-type: none"> ・十年後の場面には、お父さんが出でこないから。 ・お父さんが死んでしまったと考えられるから。 	

(4) 資料

①「交流」振り返りシート

				月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/>	名前 <input type="text"/>
★できたことや気付いたことがあれば書きましょう。				①自分の考えを伝えることができた。 ◇話している人の方を向いて、よいしせいで。	
②友達の考え方を聞くことができた。 ◇うなずいたり、あいづちをうつたりする。				③友達の考え方を知ることができた。 ◇うなずいたり、あいづちをうつたりする。	
④友達の考え方と同じところや違うところに気付くことができた。				<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>

②教材文

③児童の実態 別添 (協議会後回収)

協議会メモ

成果

- ・マーカーも使い方次第では、効果的。→ルールを決めるといい。
- ・退席した児童にとって学習の場を使い分けられるのがよかったです。
- ・円グラフが効果的だった。
- ・児童に応じたワークシートがよかったです。
- ・言語化できない部分を表現できてよかったです。
- ・学習の積み重ねがあったからこそ、これだけ高度なことを求められる児童になったと思う。→児童の限度を決めつけすぎないように。
- ・継続していくと慣れていく、成果が出ることが分かった。

課題

- ・特性に応じたワークシートの用意が毎回は難しい。→国語に限らず使えるのは良い。
- ・振り返りシートで児童に応じたワークシートを使うだけでなく学習場面でも使えると良い。
- ・円グラフを友達同士で比較できたらよかったです。→テレビで映して共有していく。
- ・LDの児童のためにワークシートを選べるようにしたが、その児童が選んでいなかった。(自己理解) →交流は難しいか。
- ・児童が発言したときに板書に◎をつけて認めていくとよかったです。
- ・拍手だけでなく、ワークシートを用いて意見交流ができるとよかったです。
- ・もっと細分化して交流ができるとよかったです。
- ・「一つの意見に決めよう」とすると交流ができたのではないか。
- ・幸せである根拠をもっと拾えれば交流の材料になったのではないか。
- ・国語の教材をPCに蓄積していくとよい。
- ・ミシンも現在のものとは違うから見せるなどできるとよかったです。

質問

- ・離脱したC児は、反応などはしていたのか。
- ・せせらぎ学級の児童にどこまで交流を求めるのか。
- ・交流は他の教科でどのように取り入れているのか。

改善案

- ・学習計画全体を児童の実態に合わせて見直す。
- ・提示した資料をより活用し、学習の整理につなげる。
- ・せせらぎ学級でも教師の発言をできるだけ減らし、児童主体の学びに転換していくとよい。

その他